

# 三井住友DS・新興国債 インデックス・ファンド

追加型投信／海外／債券／インデックス型

日経新聞掲載名：SMD興債イ

2024年12月3日から2025年12月1日まで

第 5 期 決算日：2025年12月1日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として米ドル建ての新興国の公社債に投資し、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

## 当期の状況

基準価額(期末)	12,274円
純資産総額(期末)	165百万円
騰落率(当期)	+12.1%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

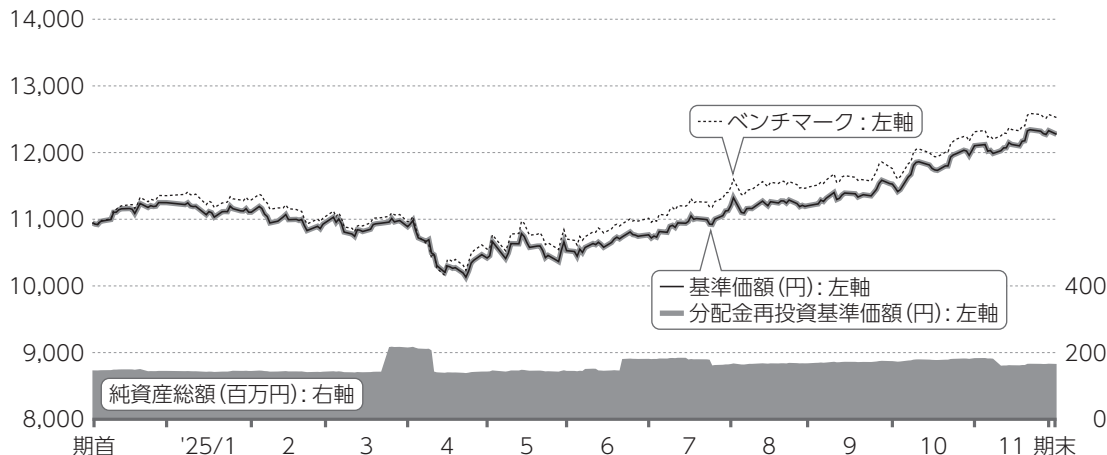
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	10,946円
期末	12,274円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	+12.1% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドのベンチマークは、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)です。

※ J.P. Morgan・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)は、J.P. Morgan・セキュリティーズ・エルエルシーが公表する指数(J.P. Morgan・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス)を基に委託会社が換算したものです。

J.P. Morgan・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラスは、信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。委託会社は同インデックスの使用許諾を得て使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承諾なく同インデックスを複製・使用・頒布することは禁じられています。また、J.P. Morganは当ファンドの取引および運用成果等に関して一切責任を負いません。Copyright © 2021, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

## 基準価額の主な変動要因(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として米ドル建ての新興国の公社債に投資することにより、J.P. Morgan・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。

実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いませんでした。

## 上昇要因

- 実質的に保有している米ドル建て新興国債からのクーポン収入を得たこと
- 利下げ観測などを背景とする金利の低下や、リスク選好的な動きから、実質的に保有している米ドル建て新興国債の価格が概ね上昇したこと
- 日本の新政権による財政拡張が意識されたことなどを背景に、米ドルが対円で上昇したこと

## 1万口当たりの費用明細(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	52円	0.472%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は11,108円です。
(投信会社)	(25)	(0.225)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(25)	(0.225)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	2	0.020	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保管費用)	(2)	(0.015)	
(監査費用)	(1)	(0.005)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	55	0.491	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

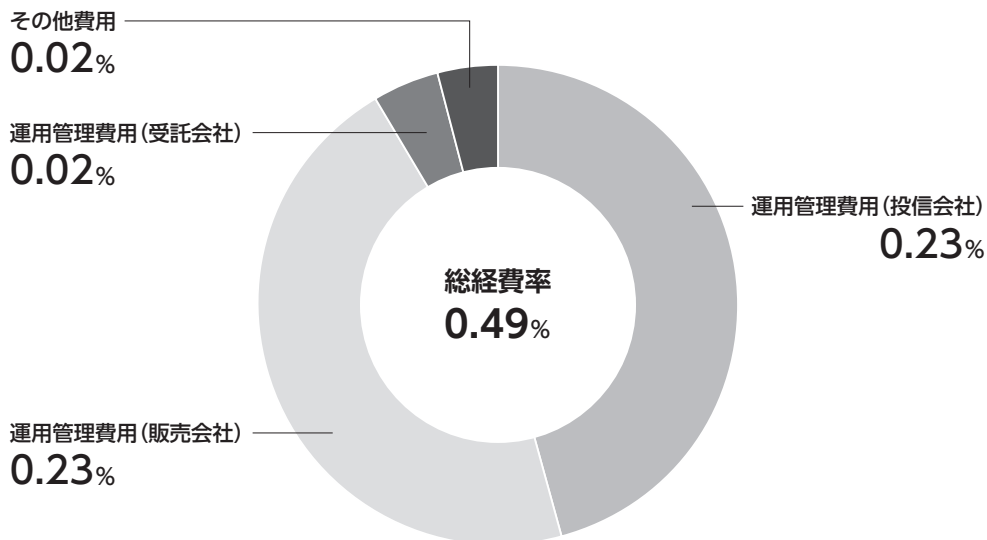
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

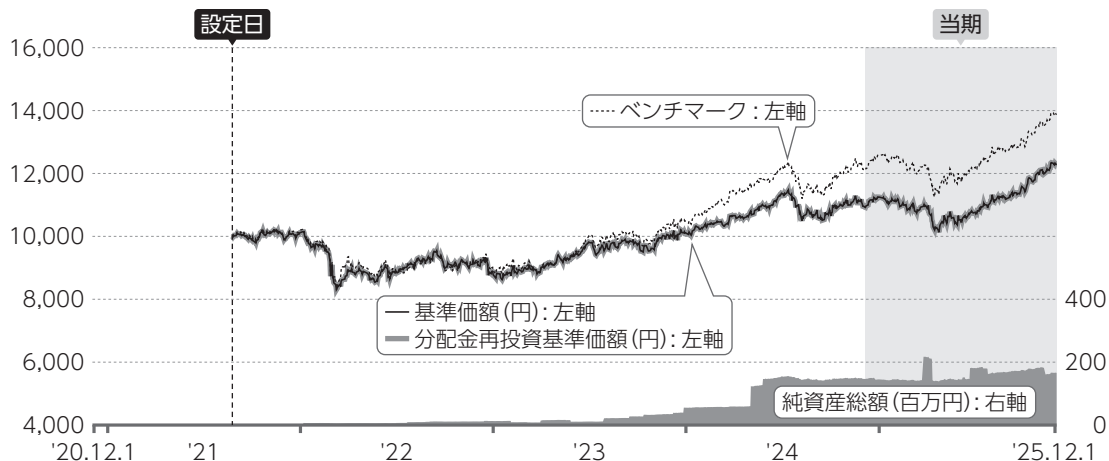
※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は0.49%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2020年12月1日から2025年12月1日まで)

当ファンドは、ファンド設定後5年間を経過していないため、設定日(2021年8月23日)以降の情報を記載しています。

最近5年間の推移



※ベンチマークは、設定日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2021.8.23 設定日	2021.11.30 決算日	2022.11.30 決算日	2023.11.30 決算日	2024.12.2 決算日	2025.12.1 決算日
基準価額	(円)	10,000	9,918	9,187	10,009	10,946	12,274
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	-0.8	-7.4	8.9	9.4	12.1
ベンチマーク騰落率	(%)	—	-0.9	-6.4	11.5	17.3	14.4
純資産総額	(百万円)	1	1	11	34	146	165

投資環境について(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

米ドル建て新興国債券市場の利回りは概ね低下しました。為替市場では米ドルが対円で上昇しました。

### 米ドル建て新興国債券市場

米国債利回りは低下しました。期初は、トランプ政権の政策に対する警戒やインフレ指標の上振れなどを背景に上昇しましたが、その後経済指標が下回ったことなどを背景に低下しました。期の半ばは、米国の関税政策に関する報道が交錯する中、利下げ観測などが金利の低下圧力となる一方、関税政策によるインフレ懸念などが金利の上昇圧力となり、一進一退での推移となりました。期末にかけては、雇用の弱さや利下げ観測などを背景に金利は低下基調となりました。

米ドル建て新興国債スプレッド(米国債利回りに対する上乗せ利回り)は全体としては縮小しました。トランプ政権による関税政策への懸念などからスプレッドは一時拡大したものの、多くの国での関税延期など市場への配慮や通商協議の進展も見られたことなどが好感され、スプレッドは縮小に転じました。期末にかけても、株価が堅調に推移する中でリスク選好的な動きが見られ、スプレッドは縮小基調となりました。

債券のクーポン収入を含めた米ドル建て

新興国債市場のトータルリターンは、プラスとなりました。

### 為替市場

米ドル・円相場は、上昇しました。日銀の利上げや米関税政策への懸念などを背景に米ドル安・円高が進む場面が見られましたが、日本の新政権による財政拡張が意識されたことなどを背景に、米ドル・円は上昇しました。

## ポートフォリオについて(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

## 当ファンド

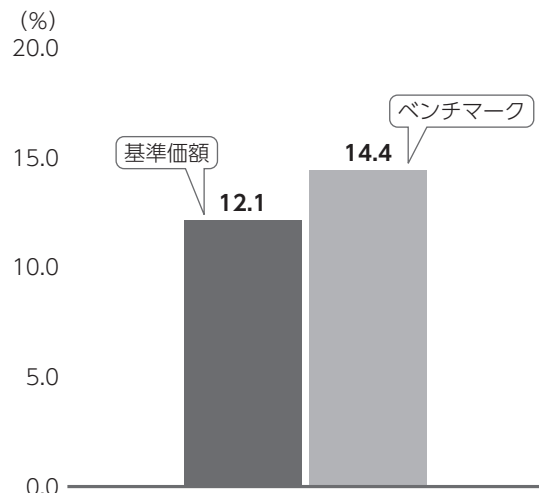
期を通じて主要投資対象である「米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド」を高位に組み入れました。

## 米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド

米ドル建ての新興国債に投資することにより、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。ただし、運用の効率性を勘案し、流動性の高い国、銘柄を中心に投資しました。

## ベンチマークとの差異について(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

## 基準価額とベンチマークの騰落率対比



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)をベンチマークとしています。

記載のグラフは、基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

## ベンチマークとの差異の状況および要因

基準価額の騰落率は+12.1% (分配金再投資ベース) となり、ベンチマークの騰落率+14.4%を2.3%下回りました。

### 下方乖離要因

- 流動性リスクが高くポートフォリオで非保有としている一部の低格付銘柄の価格が、他の銘柄に比べて上昇したため

### 分配金について(2024年12月3日から2025年12月1日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第5期
当期分配金 (対基準価額比率)	0 (0.00%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,696

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き主要投資対象である「米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド」を高位に組み入れます。

### 米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド

米国では、年内の利下げを実施することが予想されています。それにより景気の腰折れが回避されてインフレ懸念が残るほか、財政赤字が高位にとどまり金利を押し上げる見通しであることから、金利は当面もみ合いの展開を予想します。

米ドル建て新興国債のスプレッドについては、多くの新興国でインフレ率が抑制されるなか、景気支援目的の利下げが続くことが見込まれ、新興国市場の下支え材料になりやすいと考えます。ただし、新興国内では景気やインフレ、金融政策、政治状況に違いが見られ、引き続き選別色は残ると想定します。

米ドル・円は、もみ合いの展開を予想します。日本のインフレ率が高止まりしている中、日銀の段階的な利上げが視野に入ることにつれて円高圧力が強まるとみられますが、一方で日米金利差や高市首相が日銀に政府との協調を求めたことは円安要因と見込ま

れます。

上記見通しのもと、引き続き、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)に近似させるよう運用を行います。ただし、運用の効率性を勘案し、流動性の高い国、銘柄を中心に投資します。

## 3 お知らせ

### 約款変更について

- 投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。  
(適用日：2025年4月1日)

### 交付運用報告書の電磁的方法による提供(電子交付)の推進について

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われました。受益者の皆さまへの交付運用報告書の提供に関する規定について、従来は書面交付を原則としていましたが、書面交付または電磁的方法(電子メールへのファイルの添付、販売会社等のホームページにアクセスして閲覧等)による提供のいずれかに変更されました。

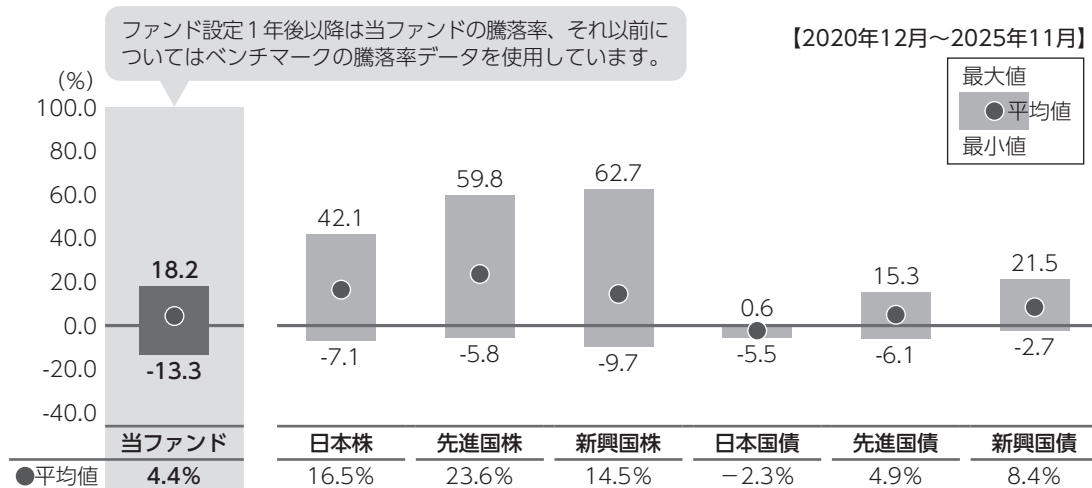
交付運用報告書を電磁的方法で提供することにより、書面の印刷および配送にかかる期間が短縮され、受益者の皆さまが、より早期に交付運用報告書をご覧いただくことや、時間や場所を問わずにご覧になることが可能になると考えられます。また、ペーパーレス化が推進されることにより、森林資源の保護や印刷・配送に伴う二酸化炭素の排出量の削減につながることが期待されます。

今後、電磁的方法による提供を実施することに関し、受益者の皆さまに事前告知等が行われますが、希望される場合には引き続き書面交付をすることも可能です。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法による交付運用報告書の提供を進めてまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券／インデックス型
信託期間	無期限(設定日：2021年8月23日)
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主として米ドル建ての新興国の公社債に投資し、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 <b>米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド</b> 米ドル建ての新興国の公社債
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指します。</li> <li>■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>
組入制限	<p><b>当ファンド</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。</li> <li>■外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</li> </ul> <p><b>米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。</li> <li>■外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</li> </ul>
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■年1回(原則として毎年11月30日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。</li> <li>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。</li> <li>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</li> </ul> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。(基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</p> </div>

## 5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### 各資産クラスの指数

<b>日本株</b>	<b>TOPIX (東証株価指数、配当込み)</b> 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
<b>先進国株</b>	<b>MSCI コクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
<b>新興国株</b>	<b>MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
<b>日本国債</b>	<b>NOMURA-BPI (国債)</b> 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
<b>先進国債</b>	<b>FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)</b> FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
<b>新興国債</b>	<b>JPMORGAN・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)</b> J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

## 6 当ファンドのデータ

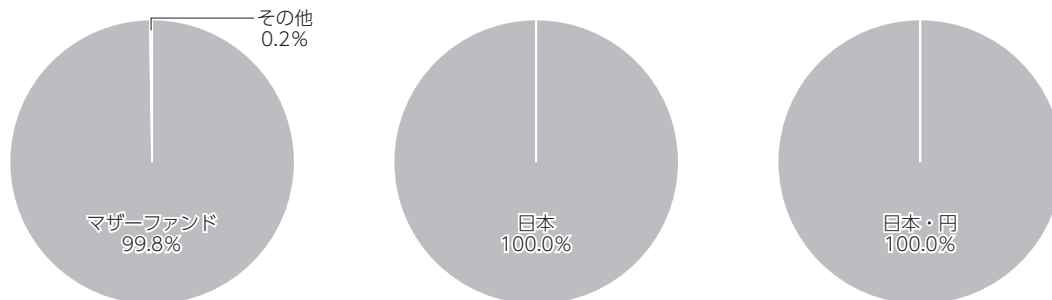
### 当ファンドの組入資産の内容(2025年12月1日)

#### 組入れファンド等

銘柄名	組入比率
米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド	99.8%
コールローン等、その他	0.2%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

#### 資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

#### 純資産等

項目		第5期末 2025年12月1日
純資産総額	(円)	165,997,203
受益権総口数	(口)	135,246,913
1万口当たり基準価額	(円)	12,274

※当期における、追加設定元本額は114,014,432円、解約元本額は112,771,004円です。

組入上位ファンドの概要

米ドル建て新興国債インデックス・マザーファンド(2024年8月1日から2025年7月31日まで)

基準価額の推移



組入上位銘柄

(基準日：2025年7月31日)

	銘柄名	組入比率
1	REPUBLIC OF ARGENTINA FL 07/09/35	3.2%
2	REPUBLIC OF ARGENTINA FL 07/09/30	3.0%
3	REPUBLIC OF POLAND 5.125 09/18/34	2.6%
4	HUNGARY 6.25 09/22/32	2.2%
5	DOMINICAN REPUBLIC 6 02/22/33	2.1%
6	REPUBLIC OF TURKEY 9.375 01/19/33	1.9%
7	HUNGARY 5.5 03/26/36	1.9%
8	REPUBLIC OF TURKEY 9.875 01/15/28	1.9%
9	OMAN GOV INTERNTL BOND 6.25 01/25/31	1.8%
10	REPUBLIC OF POLAND 5.5 03/18/54	1.8%
全銘柄数		119銘柄

1万口当たりの費用明細

(単位：円)

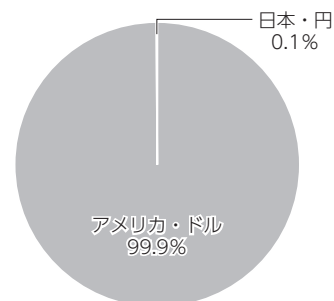
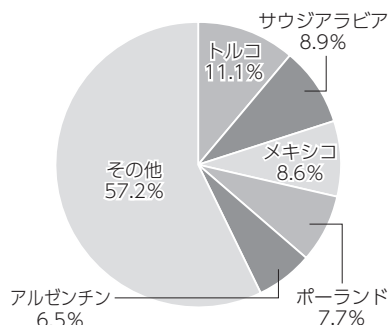
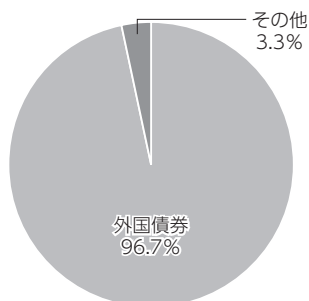
項目	(内訳)	金額	(内訳)
その他費用	(保管費用)	2	(2)
	(その他)		(0)
合計		2	

※項目の概要については、前記「費用明細」をご参照ください。

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全組入銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

※基準日は2025年7月31日現在です。